

登山口近くで小雨が降りだし、「エー・・天気予報になかったよ・・今日は晴れだったよね」などお天気談義。登山口近くに一台分の駐車場があり、ラッキー。雨具の準備をして出発。1時間余り小雨にあたりました。鈴北岳山頂では、雨は上がりましたが、冷たい風がふき寒いくらいでした。鈴ヶ岳に向かうにつれお天気も回復。フクジュソウの花々を楽しみました。あちこちに群生しているの、みなさん、あちこち観察・お写真を撮ったりと大忙し。鈴ヶ岳山頂で、フクジュソウのお花に囲まれて、お昼ごはんにしました。上りは滑るところがありましたが、帰りは比較的楽に下山、三重県側の眺望もきれいに楽しめました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史

# 鞍 掛 峠

至 山口冷川 五十丁  
自 大君ヶ畑 五十丁

伊勢と近江を結んだ鞍掛峠（791メートル）は、その昔「胸突八丁」といわれた難所で私達の先祖が京都本山へ納骨に参った道であり、お多賀参りに寿福を念じた道である。一方近江の人々にとっては伊勢参宮に下向した街道で、両国の文化交流の道であった。今は国道306号鞍掛トンネル（長さ745メートル 標高625メートル）の開通で、ただ昔をしのぶ歴史の道と化した。

第五十二代嵯峨天皇の弘仁元年（810）薬子の乱で都を逃れた参議藤原仲成がこの峠を越えて当町西野尻に隠住したという伝説がある。また、峠の名は、第五十五代文徳天皇の天安二年（858）第一皇子惟喬親王が右大臣藤原良房の追討を逃れ都落ちをせられた時、この峠で馬の鞍をはずして休憩をせられた故事にちなんで名付けられたもので、古くは竜華峠とも呼んでいた。天文十三年（1544）十月には俳諧師宗牧が江戸に下る際うたった「あとや雪しまきよこぎる笠やどり」の句が残されている。こうした数々の歴史が秘められた道が鞍掛峠である。

藤原町教育委員会

◆自然観察

|  |   |   |  |   |
|--|---|---|--|---|
|  |  |  |  |  |
| アブラチャン   | ネコノメソウ  | フクジュソウ ①  | ②  | ③   |
|  |  |  |  |  |
| ④  | ⑤   | キクザキイチゲ   | キブシ  | アブラチャン  |
|  |  |  |  |  |
| スシ   | ネコノメソウ  | カタクリ  | カタクリ   | アブラチャン  |



ナニワズ



フクジュソウ



フクジュソウ



ネコノメソウ



バニワズ



キクザキイチゲ



キクザキイチゲ



アマナ



キクザキイチゲ



ミヤマカタバミ



カタクリ



カンアオイ



ミツバツツジ

◆トレッキングの様子



雨は上がったが寒い～。



鈴北岳にて



鈴ヶ岳 ①



②



鈴ヶ岳山頂にて



鈴北岳に戻る



岩の観察



鈴北岳を下山。眺望良し。



下山 ②



③



④



⑤



⑥